

未踏峰制覇

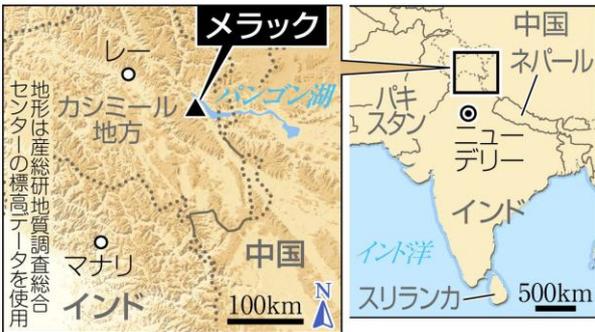
支えた経験豊富な89歳

ヒマラヤで日本山岳会東海支部

沖さん経験基に登路定め



インド人スタッフとともにメラックへの初登頂を果たした星一男さん(右から2人目)と伊藤寿浩さん(同3人目)=9月28日、日本山岳会東海支部第15次インド・ヒマラヤ隊提供



愛知、三重両県の登山愛好家で行く日本山岳会東海支部(名古屋市の登山隊が今秋、インド・ヒマラヤ山脈にある未踏峰(6481メートル)の初登頂を果たした。成功を支えたのは、半世紀近くヒマラヤ山脈に通い、自身も未踏峰に挑んできた同支部の沖允人(まさと)さん(89) 〓 同市天白区。白血病を患いながら、総隊長として現地で仲間の挑戦を見守り、「日本人が初めて山頂に立つという記録を残せ、精いっぱい成果だ」と喜んだ。

(下條大樹) 東海支部は1988年から登山隊をこのエリアに派遣している。未踏峰の初登頂は今回で11回目となり、国内でも屈指の登山家集団だ。今回は愛知県内外の40〜80代の7人で登山隊を編成した。対象の山は、チベット高原にあるパンゴン湖の南に横たわる

メラック登山口(4778メートル)を訪れた沖允人さん 〓 9月29日



パンゴン山脈にあり地元で信仰の対象とされてきた「メラック」。一行は9月9日にインドの首都ニューデリーに到着。高地に体を慣らしつつ、登山基地(ベースキャンプ、BC)を標高4600メートルの村内に設営した。同28日、体調不良などで登頂を断念する隊員が出る中、隊長の星一男さん(74) 〓 愛知県安城市 〓 と伊藤寿浩さん(66) 〓 名古屋市長和区 〓 が無事登頂に成功した。

印藤さんは「いかにもヒマラヤという景色が眺められ、感慨深いものがあった」と振り返る。79年からヒマラヤ山脈に登っている沖さんの経験は、今回の成功に不可欠だった。メラックの偵察を2018〜23年に4回実施し、これまで基本とされた北側からの登山が困難と判断し、南側からの登路を定めた。パンゴン山脈で名前のある未踏峰はメラックのみ。登頂は悲願だった。

だが今年1月、沖さんは急性骨髄性白血病と診断された。出血や貧血症状が起きた際はすぐに輸血する必要があり、医師からはヒマラヤ登山を反対された。自身の登頂は断念したが、「何とか日本人が初登頂する姿を見届けたい」と、自己責任で参加。登山隊とは別行動し、BCと登山口を目的地とし、仲間の朗報を待った。登頂翌日の9月29日、下山した疲労困憊(こんぱい)の星さんとBCで合流。「良かった、良かった」とたたえた。登頂を祝って缶ビールで乾杯し、「思い残すことはない」と感傷に浸った。

沖さんは余命1〜2年と言われている。「一日でも長生きして、経験を後輩の人に伝えていきたい」と語った。星さんは「沖さんの分まで登ろうと思うと、アドレナリンが出た。これからも体が動く限り、未踏峰に挑戦していきたい」と思いを引き継ぐ。